



いのち・愛、そして絆を大切にするまちづくり

ヒューマン

ヒューマン【Human】とは…

「人間の」とか「人間的」と訳され、一人ひとりの人権を大切にする明るい上田市であることを願い、名付けられました。

過去に学び 踏み出そう 未来へ

フラフープリレーで楽しんでいる子どもたち。みんなの気持ちを一つにしないと前に進まない。一人がつまづくとみんなが止まってしまう。そういう時は、声をそろえて「セーの」で再出発だ。

大河ドラマ「真田丸」の放映が終了した。市街地や史跡、城跡公園が全国や外国からもお客さんが見えて大賑わいの一年だった。成功のために、行政と多くの市民が招致活動やボランティア等で参加した。物語の推移によって440年ほど前の真田三代とともに生きたつもりになっているいろいろ想像しながら視聴した。私は晴天の秋に名胡桃城、沼田城跡、白井城址を視察した。いずれも守りやすい河岸段丘の先端部にあった。当時の人はそこに立って遠くから攻めて来る敵を思い描いて必死になって考えただろう。もちろん上田城築城でも水や石、材木、地理を、また政として町割りや田圃のこと等も守りやすく攻めやすいように工夫したでしょう。

信繁(幸村)はちょうど400年ほど前の1615年に大阪夏の陣で討ち死している。戦国にもロマンを感じることはあるが、その裏にも敵や味方に多くの人が犠牲になっている。しかも激戦に敗れた人の家族のことを少しでも考えたことがあるでしょうか。好奇心としての歴史にとどまっていたは残念である。

今年には憲法施行70年(1947)になる。この間、人権問題の一番重い戦争をすることなく平和が続いたことは、国民に明るい話題がなく満足な食料がなかったあの苦しい太平洋戦争時や戦後は二度と経験したくない、という体の奥底からの決意と戦争はしないという日本国憲法あったればこそではないだろうか。

外国に目を向けると500年前にはルターの宗教改革、100年前にはロシア革命。いずれも圧政に苦しんだ民衆とリーダーが力を合わせて旧制を打破したものだ。また1780

上田市人権啓発推進委員会 会長 出澤 宏

年(237年も前)ベンジャミン・フランクリン(アメリカ独立宣言の起草者の一人でもあり、雷の研究の科学者)が『人間同士がオオカミのように争いあうのをやめ、ヒューマニティをいつか身につけるようになってほしい』とプリーストリー(酸素の存在を発見した化学者)に書き送っていた。当時の科学者が明治になる80余年も前に各国内(仏、米など)で科学の進歩に心が伴っていない、人々が争ってばかりいるのを嘆き、道徳や人間性を身に着けることを願っていたのです。

昨年10月に脳科学者の養老孟司氏の講演をお聞きました。

「希望は壁の先にある」ことを具体例を挙げて語られた。演台の前に出てこられ、少しでも聞く人の近くに。

「意識があるとおしゃべりすることも、蹴つ飛ばすこともできる。眠っている間は意識はない。世の中は意識中心の世界だ。「そうでしょ」と前の席の人がうなずくと次へ話題を進める。猫や犬はしゃべれないが音のサイクルで反応する、絶対音感がある。人はそれをいつか失った。同じものは世界に一つもない、「そうでしょ」。人間の体の分子は7年で100%変わってしまう。川の流れるも同じ水ではない」と。

今年も日本や世界の国々で格差や分断が進み、いろいろと変わることでしょう。それにはまず自分の心の中にある壁、社会にある壁に注目して、どうすれば崩せるか、お互いの意見を出し合って共感できるところは広めて、よりよい未来のために共に生きて行きたい。

腰かけている人の前を通るとき、笑顔で「失礼します」「ごめん」等ひと声かけたり、手刀を切って通ったりするとか、それが人権を尊重する足元の第一歩ではないでしょうか。

一歩踏み出して…絆は糸が何本つながればキズナが深まったと言えるでしょうか。

ひと ひと 女と男が共に生きる社会を考える 『アーサー王物語』より

6世紀、ブリテン（現イギリス）で活躍したといわれるアーサー王。その人物像は伝承を通して形成されヨーロッパ各地に広まりました。今から700年近く前、多くの伝承をもとに「アーサー王物語」が作られました。物語の中には平等と友情を期して円卓を囲んだアーサー王と配下の騎士たちの挿話があります。これからご紹介するのはその中の一つ「ガウェインの結婚」というお話の大筋です。※

不思議なお話ですが読み進めていくと「女性の人権」や「男女共同参画社会」を考える際に手掛かりとなる言葉に出合います。物語を通して古くて新しい課題を見つめ直し、共に生きていく社会の意義を考えてみませんか。

（人の価値観は様々です。この物語は当時の価値観を背景にして作られたものです。）

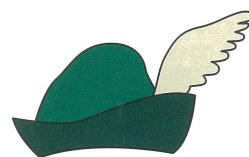
※参考文献：角川文庫版「完訳 中世騎士物語—騎士道の時代」トマス・ブルフィンチ著 大久保博訳

「ガウェインの結婚」

ある日アーサー王が国民からの訴えを裁いていると、一人の乙女が「私たちの領地が邪悪な騎士に奪われ、恋人も捕虜にされてしまいました」と訴えて来ました。アーサー王は自分の国でそんな不法なことは許せないと、たった一人でその邪悪な騎士の城に乗り込みました。

ところが城に入った途端に、アーサー王の心から勇気と気力が抜けてしまったのです。それは城全体に魔法がかかっていたからでした。そのためアーサー王は邪悪な騎士の捕虜となってしまいました。アーサー王は命乞いをしたのですが、邪悪な騎士の返答は「命が惜しければ、これから私が出す問題の答えを一年以内に見つけてこい、そうしたらお前を許そう。それができなければお前の命と国を貰おう」というものでした。邪悪な騎士が出したのは次の問題でした。

「すべての女性が最も望むものは何か」



こうして答えを求めてアーサー王の放浪の旅が始まりました。

旅の先々で年齢も仕事も身分も関係なく行き会うすべての女性に「お前の望みは？」と尋ね回りました。すると女性たちからは違う答えが次々と返ってきたのです。「美貌」「健康」「富」「若さ」「子ども」「立派な騎士の夫」「恋人」などなど。アーサー王は「すべての女性が最も望むもの」を求めて諦めず旅を続けました。

約束の日まであと一日。答えが見つからないままアーサー王は力なく暗い森の中へと足を進めました。こぶだらけの大木の根元にとても醜い老婆がしゃがみこんでいました。アーサー王は、気付かない振りをしてそこを通り過ぎようとしていました。すると突然老婆が立ち上がりアーサー王を叱り飛ばしたのです。「その騎士よ、立派な鎧に身を固め、さぞかし高貴なお方かもしれないが、淑女を無視し通り過ぎるとは無礼な！」

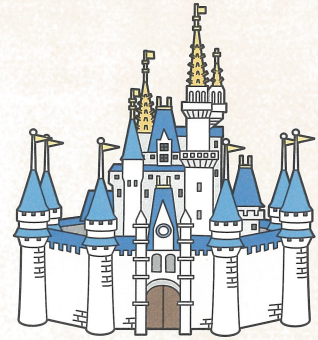
アーサー王は慌てて馬から下りて非礼をわびました。その誠実な姿を見て老婆は機嫌を直して「私はあなたが探しているものを与えることができます」と言ったのです。邪悪な騎士への返答に窮していたアーサー王はすぐに答えを聞こうとしましたが、老婆はある条件を付けました。それは「答えを教えるかわりに、若くて立派な騎士を私の夫にしてほしい」というものでした。是が非でも答えを望んでいたアーサー王は老婆の条件をのみ、答えを教えてもらいました。

翌日アーサー王は邪悪な騎士の城へ。邪悪な騎士の前でアーサー王は老婆に教えて貰った答えを最後に残し、今まで女性たちから聞いた答えを全部言ってみました。「違う、違う」と言いながら邪悪な騎士は上機嫌です。答えが尽きた時、「命と国をいただこう」という声。

それを聞くやアーサー王は老婆から教わった答えを言い放ちました。

「自分の意志を持つことです」

答えを見破られた邪悪な騎士は大いに悔しがりました。



こうしてアーサー王は一年ぶりに自分の城に帰ることができました。家来の騎士たちは大喜びでしたが、アーサー王だけは例の老婆との約束が心に重く残っていました。誰をあの醜い老婆と結婚させようかと日々悩み続けていました。そんな姿を見て心を痛めた甥のガウェインはアーサー王に悩みの仔細を尋ね、「事情」を聞きだしました。ガウェインはすぐに「私とその老婆の夫になりましょう」と申し出たのです。アーサー王は上品で若くて健康な甥のガウェインを醜い老婆と結婚させることに反対しましたが、ガウェインは引き下がらず、結局彼が老婆の夫となることに決まりました。

アーサー王の約束の為にそして老婆との少しも幸せでない結婚と、仲間の騎士たちがからかうなか宮廷で結婚式が行われました。その夜、ガウェインと老婆が二人きりになると、ガウェインは溜息ばかりつき花嫁を見ようとしません。すると老婆は「なぜあなたは私を見ようとしないで溜息ばかりついているのですか」と問い掛けてきました。ガウェインはすぐに「理由は三つ、一つはあなたが老人であること。二つ目はあなたが醜いこと。三つ目はあなたの身分が低いことだ」と答えました。

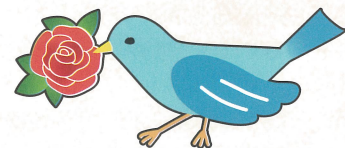
それを聞いて老婆は反論しました。「確かに私は年老いているが、それだけ人よりも思慮深く知恵に富んでいます。妻が醜いことは夫にとって幸せです。なぜなら他の男が言い寄ることを心配しなくても良いから。そして最後に人の価値は生まれや身分で決まるものではありません。魂の輝きによるものです」と。

その言葉にガウェインが振り返ると、そこには輝くばかりの美しい乙女がいるではありませんか。驚いて「お前は何者だ」と聞いたガウェインに花嫁は答えました。「実は悪い魔法使いに魔法をかけられて老婆の姿に変えられてしまいました。二つ願いが叶わなければ、もとの姿に戻ることはできません。立派な騎士を夫にするという一つの願いは叶えられたので、私は一日の半分をもとの姿で過ごすことができるようになりました。もとの姿でいられるのは昼がよいですか夜がよいですか。わが夫よ、お選びください」

それに対してガウェインはこう言いました。「その美しい姿は、二人だけの夜に見せてほしい。昼にその美貌を他の男たちに見られたくないのだ」と。すると花嫁は「女というものは、他の騎士や淑女とお付き合いするときに美しい姿でいられたら、それはそれは幸せです」と答えました。

ガウェインはしばらく考えたあと、こう言いました。

「お前がどちらかを選びなさい」

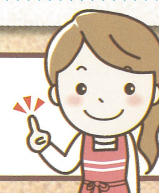


すると花嫁は満面に笑みをたたえてこう言いました。「たった今、二つ目の願いが叶いました。私は昼も夜ももう老婆に戻ることはありません」

……さて花嫁が言う二つ目の願いとは何だったのでしょか？

そうです「**自分の意志を持つこと**」だったので。

今回は「女と男が共に生きる社会」をテーマに特集記事を掲載しました。ご覧いただいた感想などを8ページに記載の事務局までお寄せください。



ご家族みなさんでお読みください

いのち・愛、そして絆を大切に作るまちづくり

上田市人権啓発推進委員会 平成28年度の歩み

上田市人権啓発推進委員会は、各団体の代表や自主的に入会した140余名の市民で構成されています。当委員会では、お互いの人権を尊重し、あらゆる差別をなくそうと学習や市民への啓発活動を行っています。より多くの皆様に当委員会を知って参加していただきたく、この1年間の主な活動をご紹介します。

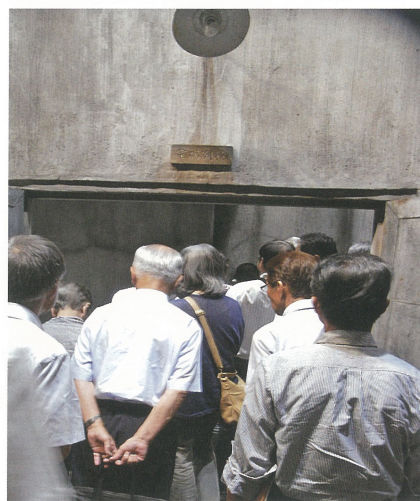
ハンセン病啓発施設「重監房資料館」

委員視察研修会 平成28年7月14日

群馬県草津町にある「重監房資料館」を見学しました。重監房とは、国立ハンセン病療養所栗生楽泉園にかつてあったハンセン病患者を対象にした「懲罰用の建物」です。60年以上の長い時を経て現在は、実際には「建物の基礎部分」だけが残っています。資料館に入って、まず、映像を通して「ハンセン病患者への差別と偏見の歴史」や「重監房に閉じ込められた患者の虐げられた生活」等を学びました。映像の中で、「この重監房には、9年間で93名の患者が収監され、そのうち23名が亡くなった」と説明していて、人権を無視された過酷な生活が続いていたことに驚かされました。

続いて説明を受けた展示室では、重監房の跡地の発掘調査の結果、出土した南京錠やお椀、眼鏡を見ることができました。当時、重監房に収監された人たちは、どんな思いで過ごしたのかと想像して胸が締め付けられる思いがしました。

また、実寸大の再現展示コーナーでは、特別病室（重監房）の房に数名ずつ入ってみました。参加者は、口々に「こんな狭くて暗い中で、どうやって生きていけるのか、自分は、とても耐えられない」と話していました。



▲実寸大再現展示の「特別病室」(重監房)に入る参加者

『希望は「壁」の先にある』と題し講演する養老孟司さん

第11回人権を考える市民のつどい 平成28年10月6日

サントミュージアム大ホールにて、上田市他関係諸団体の主催により、「いのち・愛、そして絆」をテーマに市民のつどいが開催されました。

今年は、上田市合併10周年記念事業の一環として開催され、例年にも増して多くの参加者で会場は3階席までいっぱいになりました。

はじめに、参加者全員で隣席の方とハンドインハンド（手と手をつないで）「世界は一つ」を大合唱し次第に入りました。

和やかな雰囲気の中、「市民へのアピール」としてバリアフリー合唱団「コールレインボー（代表 佐藤千枝さん）」が紹介され、佐藤さんと共にステージには30余名の合唱団員の方が登壇し、現在の活動内容と3曲の歌を披露してくださいました。障がいのある人ない人、歌の大好きな人たちが集まって活動しているサークルです。3曲目の「Happyバースデー」は、障がいをもちながらも元気に指揮をし、曲に合わせてリズムを取りながら、歌い手・聴衆を音楽の中へと引き込み、終わると同時に温かい拍手がひとしきり続きました。この会では、入団者大歓迎ということ、なお、2年に1回発表会をしているとのこと。今後の活躍が楽しみです。

続いての講演会は『バカの壁』の著者でなじみの深い養老孟司さんです。『希望は「壁」の先にある 養老流～



▲サントミュージアム大ホール

人生を楽しむ極意～と題して、意識⇒人間は意識を持って常に行動すること。現在は伝達（コミュニケーション）がスマホやパソコン中心の世界になりつつあり、とても危惧している

とのこと。人間と動物の能力の違いは何か・人間とコンピューターの違いは何か等、お話くださいました。

また、先生の諸外国を旅された経験で「意地悪されない国の犬は、人間を攻撃しない。」と動物を例題に挙げ、世界がどちらへ向かって進むのと、人間としてどう生きるかは別とのこと。同じという意識により一つの見方をするのではなく、五感で感じると世界が違って見える。と講演の最後まで『意識』の言葉、を繰り返されていました。

1時間半の講演で一度も椅子に座ることなく、78歳という年齢を感じさせない講演会でした。参加した多くの方が胸に残る温かい講演会になりました。

人権啓発担当者研修会

平成28年11月5日

「想う つながる 一歩ふみ出す」のテーマの下、市内社会教育関係団体の人権担当者を対象とした研修会が開催されました。

子どもの人権、同和問題、障がい者の人権等について人権啓発DVD『イマジネーション』を全員で視聴後、6つの分散会に分かれ、自分の今置かれている立場や、今までの様々な経験をもとにして、人権を守るための一歩を踏み出すために語り合いました。

【参加者の声】

- ・助言者から新しい部落史観について教えてもらい、眼からうろこが落ちる思いでした。
- ・普段人権について話すことはなく、また、話しにくかったが、グループの皆さんに自分の話を受け入れてもらい、安心できました。



▲塩田公民館

人権作品審査

平成28年12月14日～平成29年1月11日

支え合い共に生きていく社会を目指し、人権尊重への理解を深めていただくために人権に関わる作文・詩・標語・ポスターを募集いたしました。児童・生徒、市民の皆様から773点もの作品が集まりました。ご協力に感謝申し上げます。作品それぞれから一人ひとりを大切にして共に生きていくことの大切さが伝わってきます。

数次の審査を経て応募作品の中より最優秀・優秀作品が決まりました。選出された作品は、人権が尊重される社会の実現を目指し今後の人権啓発活動で活用させていただきます。



▲中央公民館での作文審査

第68回人権週間に併せ 街頭啓発

平成28年12月4日～10日



▲上田駅前

人権週間に併せて、12月5日の早朝、上田駅やスーパーで街頭啓発を行いました。

人権擁護委員の皆さんや人権啓発に関わる団体の方々と共に、この人権啓発活動が少しでも浸透していく事を願いながら、職場や学校へ足早に向かう人々に啓発物品とチラシを手渡しました。

常に相手の気持ちを思いやる優しい心を持って人と関わり、楽しい日々を過ごせる社会になる事を願い啓発活動を行っています。

これからも誰もが住みよい社会になることを願い、様々な啓発活動を続けていきます。

うえだ人権フェスティバル

平成29年2月18日～19日

「第29回 いのち・愛・人権展」が丸子文化会館において開催されました。

会場には、市内の小・中・高校生や一般の方が応募した人権作品の中から選ばれた優秀作品や市の人権啓発推進委員会が作成した人権資料が展示されました。

18日午後には、最優秀作品の表彰式と作文の部受賞者の代表による朗読、そして、「ピアノで語る音楽と愛」と題して、上田市出身のピアニスト上原ひろ子さんを招いての人権コンサートがありました。最後に参加者全員で「故郷」を歌いました。歌声が会場全体を包み、一人ひとりが「つながり」を実感するひと時となりました。19日には、人権作品DVD上映会が開かれ、『アイ・コンタクト～もう一つのなでしこジャパン～』と『サクラサク』の2本を鑑賞しました。聴力に障がいのある方の思いや認知症の「じいちゃん」を介護する家族の在り方等について考える機会になりました。



▲丸子文化会館

平成28年度 最優秀人権啓発作品

上田市人権啓発推進委員会では、上田市教育委員会とともに、毎年多くの方に人権尊重への理解を深めていただくために人権啓発作品(作文・詩・標語・ポスター)を募集しています。

今年度も小中学生をはじめたくさんの方に、応募していただきました。その中から最優秀作品に選ばれた作品の一部を紹介します。



▲うえだ人権フェスティバルで表彰式が行われました。(平成29年2月18日)

作文の部

幸せな「笑顔」

神科小学校四年 今井 咲希

私達はクラスで、「ほのぼの」というおじいさんおばあさんがいるしせつに行き交流をしてきました。実は、そこにいる方達は認知症の方達でした。

でも、行ってみるとみんな一人一人幸せそうな満面の笑みをうかべて私をむかえいれてくれました。まず思ったのは認知症の方でも、人はみんな一人一人の大切な小さな種をもっているということ。それは、一人一人のゆめ・一人一人の希望だと思えます。その種を育て続けると、一人一人の良さにつながります。ゆめや希望に向かって苦しくても辛くても前を向いて歩いて生きていくんだなあと思います。

交流をしている時に、私達の方を向いて話を聞いたりしてくれる姿にとってもすばらしく、人としてとってもしつかりしていてがんばっているなあと感じました。私達にたいしてやさしくして仲良くせつしてくれて、それはもう「家族」のようなそんざいに感じました。家族は友達よりも、もつととても大きくて大切なそんざいです。やさしくて温かくてとっても大きなそんざいでもあります。

私達が帰るころになると涙を流しながら、「サヨナラ。」と言ってくれました。

それを見ていたら「また来たい。いやぜつたいに来るぞ。あの笑顔を思い出したいな。」と思いました。

私達のためにあんなに最高の笑顔をを見せてくれて、笑顔は人の心をゆり動かすまほうがかかっているようでした。人のためになみだを流せるということ。人のことを心から考えられて、本当の笑顔に、本当の幸せになれるということ。でも、そのまほうはもしかしらほのぼののみなさんの笑顔の力なのかもしれません。私ももしかしたら、その幸せな笑顔という日常の中でもっとも大事な笑顔のまほうにかかってしまったのかなあと思えます。つまり、笑顔というのは生きていくうえでとても大事なこともかもしれません。人と人のつながりはまず笑顔で始まるのかなあと思いました。なので初めて会った人でも笑顔を忘れずに笑い合いたい。初めて会って、笑顔の人なら安心していっしょに過ごせると思えます。なぜなら「笑顔」ということはとてもすばらしいまほうの言葉だからです。



作文の部 最優秀賞 受賞者

ぼくたちのなかま

塩田西小学校一年 滝澤 啓介

さそつてくれて ありがとう

川辺小学校二年 芳賀 拓真

なかよしじゅんかん

神科小学校三年 中山 愛梨

幸せな「笑顔」

神科小学校四年 今井 咲希

仲良し

東小学校五年 清水 黎

言葉

塩川小学校六年 櫻井菜々花

後期人権同和教育を終えて

学んだこと

第五中学校一年 花岡 愛梨

人権学習のまとめ

第四中学校二年 石田 陽菜

十人十色

依田窪南中学校三年 松山 祐奈

広沢里枝子さんのお話を聞いて

丸子修学館高等学校二年 大久保莉乃

詩の部

名前の大切さ

神科小学校 四年 津林 琉希

一人一人名前がちがうけど、みんな同じ人間。
ぼくは名前で、ばかにされたことがあった。
一人一人の名前は、お母さん、お父さん、おじいちゃん、おばあちゃん、家族みんなが、一生けんめい考えてくれたもの。
もうこれ以上、ぼくのような悲しみ・いかりの顔は見たくない。
ぜったい見たくない。
だから、名前でもてあそぶのは、もうやめましょう。
ぼくみたいに、名前で遊ばれないでください。
きみは、キズつかずにいてください。
最初、ぼくは、自分の名前がいやだった。
ほかの人が名前でいじめられていないので頭のすみっこで、「つらやましいな。」って思っていた。
けど、校長先生が『世界一大事なものは自分の名前』とお話してくれた。
その話が終わった時
ぜんぜんそんな事は思っていなかった。
反対に、自分達の名前が世界で一番うれしい事だ。と思えた。
「ぼくは、「おみ。」「あへ。」と言われるように「しほひきんぐ」とよばれた方がうれしい。
だから、ちがう学年の人の名前も覚えてえ顔でよんで友達になれるようにするんだ。
そして、友達をふやすんだ。

詩の部 最優秀賞 受賞者

わたしのともだち	塩田西小学校 一年	山浦 楓
空にとどきそうだった	武石小学校 二年	金子 夢空
おにごっこ	神科小学校 三年	工藤 大和
名前の大切さ	神科小学校 四年	津林 琉希
ひとりじゃないよ	神科小学校 五年	永井 智美
言葉ってなんだろう	東塩田小学校 六年	滝澤 亮大



標語の部

ともだちの えがおは ぼくのたからもの

塩田西小学校 一年 市村虎太郎

いじめると 自分の心 よごれるよ

塩田西小学校 二年 柏原 悠人

いいんだよ 友だちみんな ちがうから

神科小学校 三年 小澤奈都美

いじめは、火、 みんなの声が 消防車

神科小学校 四年 上條 のの

なくそうよ いじめや差別 知らんぷり

城下小学校 五年 藤原 心

「それいいの？」 自分の心に 聞いてみて

神科小学校 六年 佐藤 陽人

みとめよう 人それぞれの 感じかた

丸子北中学校 一年 小川理紗子

考えよう もしも私が あの子なら

第二中学校 二年 増田 楓

分かりあう いじめをなくす 第一歩

丸子中学校 三年 小平 遥香

いじめ無し しないさせない 大人から

シナノケンシ株式会社 月原 伸敏

ポスターの部



ともだち いいな
塩田西小学校 一年 佐藤 一沙



いじめてもいいことはいくらもない
東塩田小学校 四年 長谷部達哉



あなたがいたから 今がある
塩田中学校 一年 長埜 凜



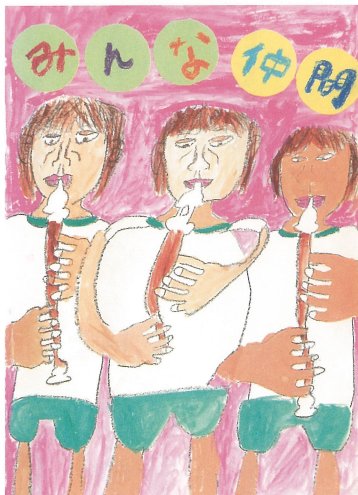
友だち 大好き
川辺小学校 二年 藤原 杏



ともだちは たからもの たからもの
丸子北小学校 五年 青柳 小春



君の気持ちをすぐってみよう
第三中学校 二年 森 優喜



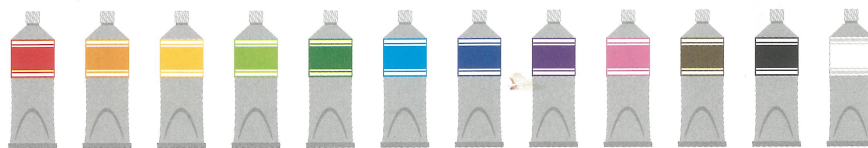
みんな仲間
神科小学校 三年 倉石 瑠里



笑顔の本当の意味に 気づけますか?
あなたは気づけますか?
東塩田小学校 六年 荻原 胡桃



一人で かかえ こまないで
塩田中学校 三年 吉永 朱里



上田市人権啓発推進委員会への
ご意見、入会申込み(年会費500円)は事務局まで。

《事務局》上田市教育委員会 生涯学習課
TEL.23-5197 FAX.23-6368